

平成13年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種	オリジナル中生もち水稲	餅加工適性に優れた「岩南糯19号」
<p>[要約] 水稲「岩南糯19号」は、出穂期・成熟期ともに「ヒメノモチ」よりやや遅く、「こがねもち」より早い「中生の晩」に属する糯米である。耐倒伏性はやや強で「ヒメノモチ」より優り、収量性は「ヒメノモチ」並である。玄米白度は、「ヒメノモチ」並に高く、良好で、餅食味は「ヒメノモチ」並みであり、餅加工適性は、「こがねもち」並に良好である。</p>					
キーワード	品種候補	糯米	岩南糯19号	農産部	水田作研究室 水稲育種研究室

1. 背景とねらい

昭和47年に奨励品種に編入された「ヒメノモチ」は、本県の主要なもち品種であり、紫波、胆沢、一関地域のもち団地を中心に栽培され、平成13年作付面積は2.625haである。

本県の主要なもち生産地である紫波地域は、「ヒメノモチ」単一品種の作付けにより、刈取り適期幅が狭く、年次によっては、刈遅れ等により、品質低下することもある。

産米品質の一層の向上を図るため、「ヒメノモチ」と作期分散が図れる熟期で、「ヒメノモチ」以上の特性を持つ中生もち品種が早急に求められている。

「岩南糯19号」は、「ヒメノモチ」より熟期がやや遅く、品質は「ヒメノモチ」並で、耐倒伏性に優れ、餅食味、加工適性に優れる中生の糯米として有望であることからその特性を紹介する。

2. 技術の内容

(1) 来歴

「岩南糯19号」は平成3年に旧岩手県立農業試験場県南分場において、中生の糯米品種の育成を目標として「新潟糯31号」（後の「わたぼうし」）を母とし、「中部糯80号」を父として人工交配を行った雑種から育成された。

(2) 特性の概要（表1）

ア. 「岩南糯19号」の出穂・成熟期は「ヒメノモチ」よりやや遅く、「こがねもち」より早い「中生の晩」。稈長は「ヒメノモチ」より短い。穂長は「ヒメノモチ」より短く、「こがねもち」より長い。穂数は「ヒメノモチ」並からやや少ない。

イ. 草型は「偏穂重型」で、耐倒伏性は「ヒメノモチ」、「こがねもち」より強い「やや強」。稈の太さは「ヒメノモチ」並の「中」。稈質は「ヒメノモチ」並の「中」である。芒の多少と長短は「稀・極短」であり、「ヒメノモチ」に比較して短い。ふ先色は「褐」、着粒密度は「やや密」、脱粒性は「難」である。

ウ. 玄米千粒重は「ヒメノモチ」より重く、収量性は「ヒメノモチ」並である。

エ. 玄米の外観品質は「ヒメノモチ」に近く、「こがねもち」より優る「上下」。

オ. いもち病真性抵抗性遺伝子型は「*Pi a, k*」と推定され、圃場抵抗性は葉いもちが「やや強」、穂いもちが「強」である。

カ. 穂発芽性は「やや易」で「ヒメノモチ」並からやや優る。

キ. 障害型耐冷性は「ヒメノモチ」より優る「やや強～強」。

ク. 餅としての食味は、「ヒメノモチ」並に良好である（図1）。

ケ. 餅加工適性は、「こがねもち」並に良好である（表2）。

3. 普及上の留意事項

(1) 耐倒伏性は「ヒメノモチ」に勝るが、当面基肥は「ヒメノモチ」並とし、追肥は減数分裂期(窒素成分で2kg/10a以内)とする。

(2) いもち病真性抵抗性遺伝子型は「*Pi a, k*」と推定され、圃場抵抗性は葉いもちが「やや強」、穂いもちが「強」であり、「ヒメノモチ」に準じたいもち病の防除が必要である。

(3) 刈取時期は当面積算平均気温(アメダス値)で1,000前後で黄化率85%程度を目安として刈り取りを行う。

(4) 穂発芽性が「やや易」と「ヒメノモチ」に近いので、降雨が続くと立毛中でも穂発芽するので適期刈取りに努める。

4. 技術の適応地帯

栽培適地は、矢巾・紫波以南、北上川流域の標高250m以下とし、「ヒメノモチ」との作期分散を目的に、「ヒメノモチ」作付け面積の約3分の1にあたる1,000haを当面、普及見込み面積とする（図2）。

5. 当該事項に係る試験研究課題

(36) 奨励品種決定本調査、(37) 奨励品種決定現地調査(H14-18, 県単)

(57) 糯有望新系統「岩南糯19号」の栽培特性

(60) 水稲有望新系統の早期栽培特性

(2000) 糯有望系統「岩南糯19号」(紫波町)

6. 参考文献・資料

- ・平成10年度 水稻新配布系統成績書(2) 岩手県農業研究センター
- ・岩手県農業研究センター 平成10~13年度試験成績書(一部未定稿)

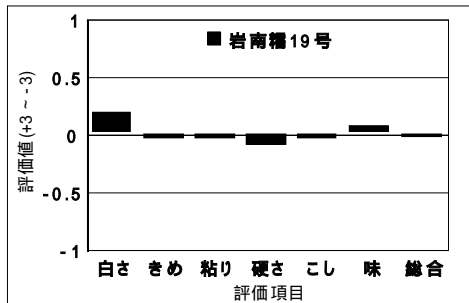
7. 試験成績の概要

表1. 特性の一覧表

系統名	岩南糯19号 交配組合せ 新潟糯31号, わたぼうし/中部糯80号					
特性	長所: ライン加工特性、食味、耐冷性 耐倒伏性は“やや強”		短所: 穂発芽性 “やや易”			
採用県及び普及見込み面積	岩手県 1,000 ha					
調査地	農業研究センター		現地試験(奨決)			
調査年次	平成10~13年		平成11~13年			
系統名・品種名	岩南糯19号	ヒメノモチ	こがねもち	岩南糯19号	ヒメノモチ	こがねもち
早晩性	中生の晩	中生の中	晩生の晩	中生の晩	中生の中	晩生の晩
草型	偏穂重型	偏穂重型	偏穂重型	偏穂重型	偏穂重型	偏穂重型
出穂期(月日)	8月5日	8月3日	8月12日	8月7日	8月4日	8月14日
成熟期(月日)	9月16日	9月13日	9月28日	9月20日	9月17日	10月3日
稈長(cm)	79.9	85.0	86.8	85.3	88.1	92.5
穂長(cm)	18.1	19.1	16.6	17.8	19.1	16.4
穂数(本/m ²)	345	356	372	375	386	406
芒の多少・長短	稀・極短	稀・短	稀・短	-	-	-
ふ先色	褐	黄白	淡褐	-	-	-
脱粒性	難	難	難	-	-	-
耐倒伏性	やや強	中	やや弱	-	-	-
穂発芽性	やや易	易	やや易	-	-	-
耐冷性	やや強-強	中	中	-	-	-
耐病性	真性 Pi a, k やや強	Pi k 強	Pi a やや弱	-	-	-
性質	強	強	中	-	-	-
玄米収量(kg/a)	53.0	51.5	56.3	60.1	60.6	51.1
対標準比	103	(100)	109	99	(100)	85
玄米千粒重(g)	24.9	22.7	21.9	24.7	23.2	20.4
品質(総合)	2.3	3.3	4.0	-	-	-
”(検査等級)	2.9	4.2	5.3	3.2	2.4	4.6

注1) 供試データ; 農業研究センター(水田作・標肥区)は1998~2001年、現地試験(3カ所)は1999~2001年の平均値。ただし、2000年は生育及び品質の変動が大きいため、データから削除した。

2) 品質は、検査等級による評価で、検査等級は1上~3下を1、~9、規格外を10とした場合のスコア値の平均値。



「岩南糯19号」はヒメノモチよりやや白い。
その他の項目はヒメノモチ並。

図1. 食味 官能試験結果

注1) 基準品種: 「ヒメノモチ」
注2) 供試サンプル: 銘柄米開発研究室
本検標肥区産、1999~2000年の4回の平均

表2. 餅加工適性評価

ライン適性	製餅時、杵頭やカッターの刃へ付着が少なく良好。
製餅後の硬化速度	こがねもち並
餅の白さ (色差計 b値) (b値低い 白い)	こがねもちより白い 岩南糯19号: (+5.37) こがねもち: (+6.05)
餅官能検査 (こがねもち基準)	香り: 0.0 味: +0.2 こし: -0.2 のび: +0.6 総合評価: +0.4

注) H11 新潟県 S社による評価(基準は新潟県産こがねもち)

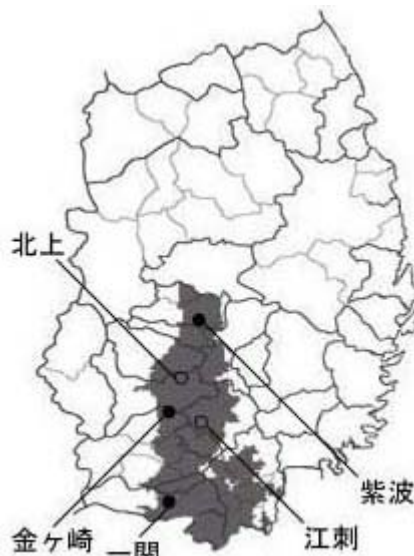


図2. 「岩南糯19号」の栽培適地

注1) 黒塗り部: 栽培適地地帯
注2) 矢巾・紫波以南、北上川流域の標高250m以下。